

アジアにおける温室効果ガスインベントリ 整備に関するワークショップ 第16回会合(WGIA16)の結果について

平成31年2月
環境省地球環境局低炭素社会推進室

WGIA16の結果について①

WGIAとは

環境省と国立環境研究所が、アジア地域諸国の温室効果ガスインベントリの精度向上と、地域の協力関係の促進を目的に、2003(平成15)年度より毎年開催しているワークショップ。

※ WGIA: Workshop on Greenhouse Gas Inventories in Asia の略

WGIA16の開催

2018(平成30)年度は、7月10～13日にインド・ニューデリーにおいて、メンバー国15カ国の政府関係者、研究者及び国際機関の参加を得て第16回会合(WGIA16)を開催した。

参加者

ブルネイ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、韓国、シンガポール、タイ、ベトナムの政府関係者、研究者、関連国際機関等(総計約120名)

主な議題

- ・ 温室効果ガスインベントリの分野毎の相互学習
- ・ 国別報告書(NC)、隔年更新報告書(BUR)の進捗
- ・ 非附属書I国からのFガスの排出についての算定方法
- ・ データの収集や保管における透明性の改善
- ・ インベントリと将来予測等関連活動との関連



↑ 全体会議の様子



↑ 分野毎の相互学習風景(小グループ)

WGIA16の結果について②

WGIA16の成果

- 国際的協議・分析(ICA)と隔年更新報告書(BUR)や、データの収集や保管についての議論の中で、一次統計の開発や改善がGHGインベントリの精度を向上させることや、ICAの経験がインベントリを含むBURの透明性を高めることが共有された。
- 主要な温室効果ガスの一つであるFガスの排出を算定・報告することの重要性が共有され、インベントリの精度の改善は各国のNDCの策定や評価にとって重要であることが確認された。
- 相互学習は自国や他国の状況を理解する良いきっかけになり、インベントリを含むBURの改善につながったとの認識等が共有された。



←WGIA16
参加者

今後の方向性

第17回会合(WGIA17)を2019年度に開催する。相互学習を実施し、パリ協定における透明性報告およびBURとそれに含まれるインベントリの改善のための議論を行う。